

大津企業景況調査報告書

(第52回)

平成23年 1月～ 3月期 実績

平成23年 4月～ 6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成23年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	18社	90.0%
製 造 業	10社	8社	80.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	23社	76.6%
合 計	100社	83社	83.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成23年1月～3月とし、調査時点は平成23年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は足踏み状態が続く(震災前回答)

平成23年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数(景気動向指数)を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、前四半期はやや改善したが今四半期はやや悪化し、足踏み状態が続いている。ただし本調査は、東日本大震災が発生した3月11日以前の回答で、震災の影響は反映されていない。売上をはじめ各指標ともやや悪化した。業種別では、業況判断DIがサービス業は前年比マイナス幅が縮小し、製造業では前年と不変であるが、建設業、卸売業、小売業ではマイナス幅が拡大した。先行き見通しは、やや改善すると見込んでいるが、今後は震災による生産活動、消費活動への影響も強まりそうで先行きに不透明感が増している。

□ 業況判断DI(前年同期比)はやや悪化

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」「(「好転」－「悪化」)は、前四半期はやや持ち直して▲24となったが、今四半期は再び悪化して▲33となった。サービス業は前年比マイナス幅が縮小し、製造業では前年と不変であるが、建設業、卸売業および小売業ではマイナス幅が拡大した。

□ 売上DI(前年同期比)は減少続くも業種バラツキ

「前年同期比でみた売上DI(全体)」「(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲32から今四半期▲33と減少が続いている。業種別にみると、製造業が増加に転じ、卸売業、サービス業は改善がみられるものの建設業、小売業は悪化し業種間にバラツキがみられる。

□ 採算DI(前年同期比)はやや悪化

「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」「(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲31から今期▲33とやや悪化した。業種別にみると、製造業、卸売業およびサービス業はやや改善したが、建設業、小売業は悪化した。

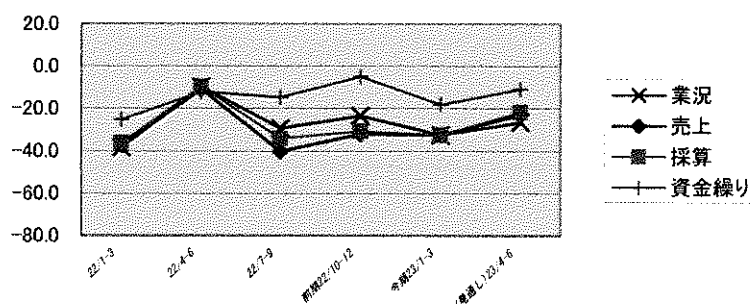
□ 資金繰りDI(3ヵ月前比)はやや悪化

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」「(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲5から今四半期▲18とやや悪化した。業種別にみると、建設業、卸売業および小売業で悪化している。

□ 従業員DI(前年同期比)は横ばい

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」「(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+1が今期±0と横ばいとなった。業種別にみると、建設業、製造業で過剰感があるが、小売業、サービス業で不足感があり、卸売業は過不足なしである。

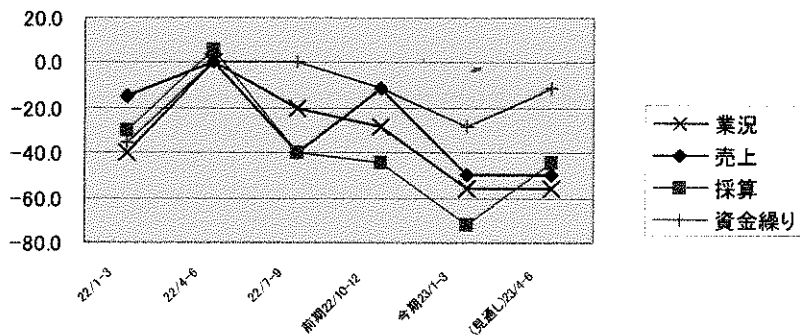
主要4項目DI指数推移グラフ(全体)



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲28 から今四半期▲56 と悪化した。「売上」は前四半期の▲11 から今四半期▲50 と減少し、「取引の問合せ」が前期の▲50 から今四半期▲44 と低調な市況が続いており、過当競争から安値受注になって「採算」が前四半期の▲44 から今四半期▲72 と大幅悪化していることによるものとみられる。「従業員」は前四半期の▲6 から今四半期▲22 とやや過剰で、「資金繰り」は前四半期の▲11 から今四半期は▲28 と悪化している。

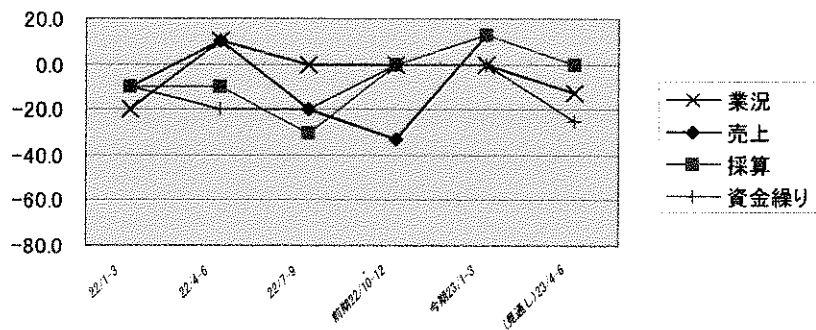
主要4項目DI指数推移グラフ(建設業)



製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期も今四半期も±0 と足踏み状態である。「売上」は前四半期の▲33 から今四半期+13 と増加に転じ、「採算」が前四半期の±0 から今四半期+13 と好転した半面、「取引(受注)の問い合わせ」は前四半期の▲33 から今四半期も▲38 と低調であるためとみられる。「従業員」は前四半期の▲11 から今四半期▲13 と過剰感がある。

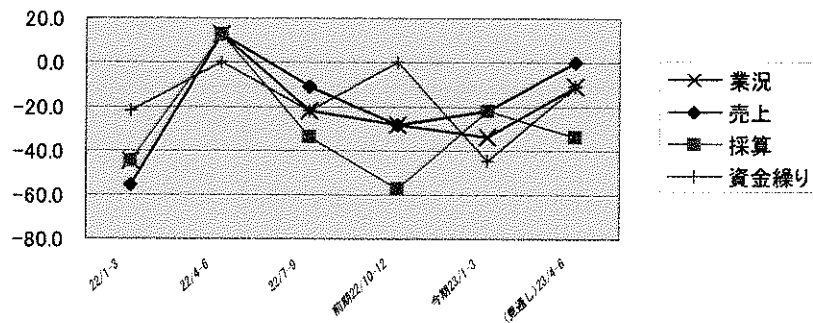
主要4項目DI指数推移グラフ(製造業)



卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲29 から今四半期は▲33 と悪化した。これは「売上」が前四半期の▲29 から今四半期▲22 と減少が続いていることに加え、「取引の問合せ」が前四半期の▲71 から今四半期▲44 と低調な市況が続いており過当競争になり「採算水準」が前四半期の±0 から今四半期▲44 と赤字企業が増えているためとみられる。「資金繰り」も前四半期の±0 から今四半期▲44 と悪化している。

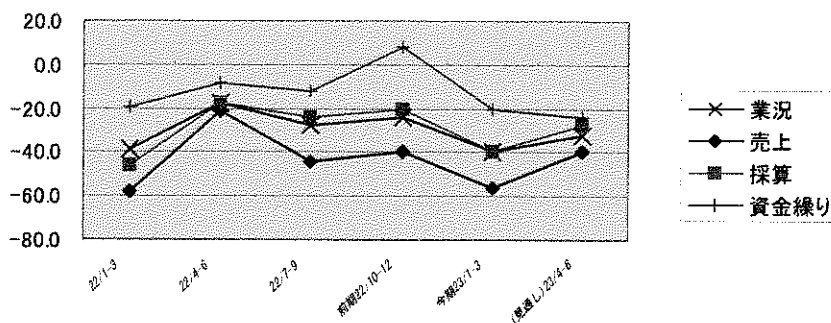
主要4項目DI指数推移グラフ(卸売業)



小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲24 から今四半期は▲40 と悪化した。「売上」は前四半期の▲40 から今四半期▲56 と減少し、「採算」も前四半期の▲20 から今四半期▲40 と悪化し、「取引の問合せ」も前四半期の▲32 から今四半期▲40 と低調であり、「資金繰り」も前四半期の+8 から今四半期▲20 と悪化していることによるものとみられる。一方、「従業員」は前四半期の+8 から今四半期+16 と不足気味で推移している。

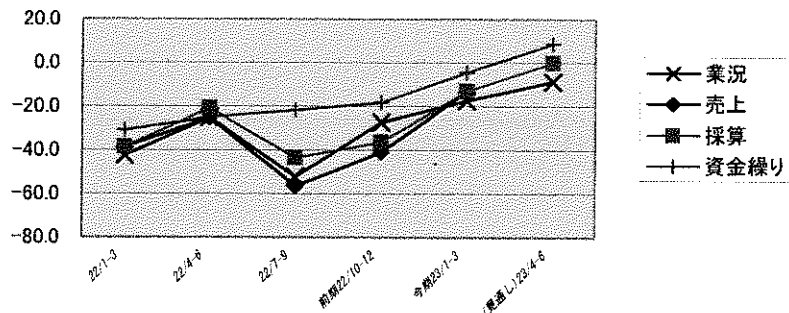
主要4項目DI指数推移グラフ(小売業)



サービス業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲27から今四半期は▲17に改善した。「売上」は前四半期の▲41から今四半期▲13と改善し、「採算」も前四半期の▲36から今四半期▲13とやや改善し、「取引の問合せ」も前四半期の▲36から今四半期▲26と改善したことによるものとみられる。「従業員」は前四半期過不足なしであったが今四半期は+4とやや不足気味である。

主要4項目DI指数推移グラフ(サービス業)



3ヵ月後の見通しについて全体の「業況」は、悪化した今四半期の▲33から▲27とやや改善する見通しをしている。「売上」は10ポイント改善して▲23、「採算」は11ポイント改善して▲22の見通しである。業種別に業況見通し判断をみると、卸売業、小売業およびサービス業は改善し、建設業は今四半期と変わらず、製造業は悪化すると見ている。

ただし、本調査は震災前の回答であり、震災の影響は反映されていない。他機関の調査によると、滋賀県においても震災の影響を受けている企業の割合は約9割あり、建築資材不足の建設関連のほか、製造業では親企業の操業停止などの影響があり、消費関連業種ではイベントや広告自粛、買い控えムードの広がり等による影響が指摘されている他、外国人観光客の団体旅行のキャンセル等々、景気の下振れ要因が数多いが、現状では先行き不透明といわざるを得ない。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の15%から6ポイント増加して21%となった。製造業が前四半期の33%から25%に減少し小売業が28%から24%に減少したが、サービス業が5%から30%に大幅増加した。投資企業の投資内容の割合は更新投資が44%で最も多く、生産力増加投資が17%、合理化・省力化投資が17%であった。投資方針は、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前四半期50%から今四半期47%にやや減少した。「景気により見直す」企業は前四半期33%から今四半期35%にやや増加した。

ただし本調査は、震災の影響が反映されていないので、今後において企業の対応は、より慎重なものになるであろうと推測される。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

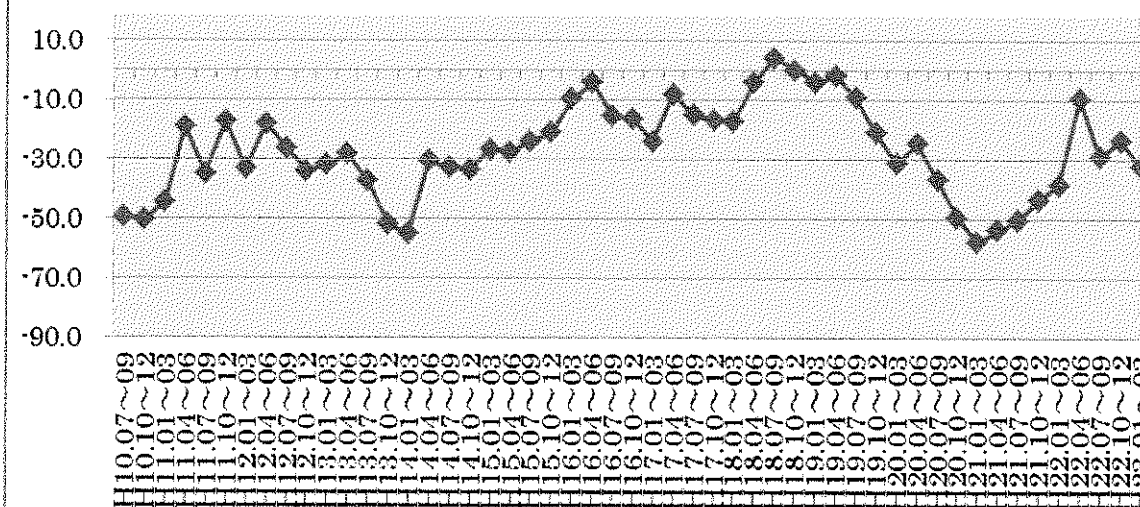
- ・ 大津市に会社をおき、長く商っているものの、生き残りをかけた営業展開を試みるにあたり、大津市あるいは滋賀県外へ進出せざるを得ない。また、すでに弊社全体の中で大津市内からの受注率が近年低下している。
- ・ インフレに対してどう対処するか、検討しております。
- ・ 「TPP」をするより、今の間、農業等が整備するまで「EPA」で良いのではないかと思う。
- ・ すこし、ゆるやかに上向き
- ・ 建築業での新規物件が増加しつつあります。新年度への期待がもてます。
- ・ 建設業界に対するイメージダウン、特に若年者離れは大きな問題である
- ・ 新聞等では、大手企業等増収増益とのことですが、弱小の建設業はまだまだ厳しい状態が続いております。大手の3月期決算の数字が良ければ夏以降受注もさかんになるかもしれませんが。
- ・ 今年、来年は予想できても5年後、10年後には想定ができない(消費税増、年金減、少子高齢化による建物の不要、必ずおこる生産者年齢の減少、消費者年齢の減少)その結果地域はどのようになるのか、予想できない。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 32.5	▲ 26.5	▲ 32.5	▲ 22.9	▲ 32.5	▲ 21.7
建 設 業	▲ 55.6	▲ 55.6	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 72.2	▲ 44.4
製 造 業	0.0	▲ 12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
卸 売 業	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 22.2	0.0	▲ 22.2	▲ 33.3
小 売 業	▲ 40.0	▲ 32.0	▲ 56.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 28.0
サービス業	▲ 17.4	▲ 8.7	▲ 13.0	0.0	▲ 13.0	0.0
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 19.3	▲ 10.8	▲ 37.3	▲ 24.1	0.0	▲ 1.2
建 設 業	▲ 16.7	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 38.9	▲ 22.2	▲ 22.2
製 造 業	37.5	37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 25.0
卸 売 業	▲ 44.4	0.0	▲ 44.4	▲ 11.1	0.0	▲ 11.1
小 売 業	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 40.0	▲ 32.0	16.0	12.0
サービス業	▲ 8.7	▲ 4.3	▲ 26.1	▲ 8.7	4.3	21.7
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲ 18.1	▲ 10.8	▲ 4.8	▲ 3.6	0.0	1.2
建設業	▲ 27.8	▲ 11.1	▲ 5.6	▲ 11.1	0.0	▲ 5.6
製造業	0.0	▲ 25.0	12.5	12.5	12.5	12.5
卸売業	▲ 44.4	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1
小売業	▲ 20.0	▲ 24.0	4.0	0.0	8.0	12.0
サービス業	▲ 4.3	8.7	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 8.7	▲ 4.3
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（H10.4～6期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>